

東京の大学を知ろう!(VIII)

～シリーズ:大学について知ろう(その17)～

似た名前の大学って結構ありますよね。さすがに地元の群馬県太田市にあるのが①**関東学院大**と**関東学園大**のどちらなのかは知っているはずですが、②**清泉女子大**と**清泉女学院大**、③**城西大**と**城西国際大**、④**東京家政大**と**東京家政学院大**の違いとなるとほとんどの人が分からないでしょう。でも大丈夫。全国的に有名な東京の3大学…**東京農業大**と**東京工業大**と**東京農工大**の区別ができていれば、受験生としてまずは合格です! まず、**東京農業大**は農学系総合大学で新大関正代の母校として有名な私立大学(世田谷と神奈川県厚木市にキャンパスがある)、**東京工業大**は学部と大学院を統一した「学院」という組織で教育・研究を行う難関国立大学(学士課程は目黒区の大岡山キャンパス)、そして**東京農工大**は明治初期以来の歴史をそれぞれ持つ2つの学校が戦後合体してできた国立大学で、農学部が東京都府中市、工学部が東京都小金井市とキャンパスも別々。このちょっと不思議な東京農工大を今回は皆さんに紹介することにします。

※上記の下線部の答 … 志々の悟>寺①

志々の悟>寺① 志々の悟>寺① 志々の悟>寺① 志々の悟>寺① 志々の悟>寺①

以下の文章は**6 & 7年前(2013&2014年)**に私が説明会に行ったときのことを書いたものです。東京にある人気国立大学の雰囲気をちょっぴり味わってくださいな。

Tokyo University of Agriculture and Technology

東京農工大学に行ってきました…

東京農工大の農学部は実は隠れた難関大だ

さて、いよいよ本日のメイン東京農工大学(略して「農工大」)です。この大学は農学部と工学部のある国立大学です。名前は地味なのですが受験生には人気のある大学で、特に農学部は旧帝大並みの難易度で、中でも関東の国公立大では2校しかない獣医学科は超難関なのです(獣医学科のある国公立大は全国で11校しかなく、関東では農工大と東大に存在するのみ…)。この大学の2つの学部のキャンパスは別々の場所にあり、今回説明会があったのは農学部のある府中キャンパスです。

吉祥寺から西国分寺を経てJR武蔵野線北府中駅に降り立った私は、雨の中を農工大に向かって府中刑務所の壁づたいにもちろん歩きます。しかし、雨足が強くなってきます。これはきっとお昼を2食分食べた私に対して天が与えた罰なのでしょう…。さて説明会です。挨拶の後、いきなり施設見学。不思議なことに雨



はあがっています。まず「動物医療センター」で犬や猫の最新診療施設を見た後、2号館で生物生産学科の教授から学生教育の話聞き(この教授から磨くと光る「泥ダンゴ」をもらいました)、さらに先進植物工場研究施設でブルーベリー栽培を研究している女子大学院生の話聞き(ココで栽培しているブルーベリーも試食しました)、説明会場に戻ります。後半は、獣医学科は岩手大と共同獣医であるとか(小動物に強い農工大と大型家畜に強い岩手大が同一カ



リキュラムで教育し、教授や学生も相互に交流)、大学院博士課程は茨城大・宇都宮大と共同運営しているだとか、実は農学部の定員300名は国立大農学部の中では最多であるとか、農工大は女子学生の割合が高いとか(工学部は20%、農学部は50%が女子)、お笑いコンビ「ハマカーン」の2人は農工大出身者であるとか、来年・再来年は入試変更が続くだとか(詳しい変更内容は是非自分で調べましょう)、盛りだくさんの説明が行われて終了。疲れ切った私は、農工大前からバスに乗って府中駅に向かったのでした(でもお腹は当然すいていない)…。(注)実はこの日は成蹊大学食と、さらに吉祥寺駅前でラーメンまで食べたのでした…

東京農工大の工学部の研究室はそれぞれ個性的だ

今回説明会があったのは工学部のある小金井キャンパスでした(ちなみに農学部は府中市にあります)。国立駅から中央線で都心に向かって数駅戻ると最寄り駅である東小金井駅に到着。この駅から北口に出て徒歩15分の所には法政大学の小金井キャンパス(情報科学部・理工学部・生命科学部)がありますが、農工大があるのは南口です。駅前の田舎っぽい商店街から住宅地を歩いて10分ほどで農工大小金井キャンパスに到着です。



東門から入ると、緑豊かなゆったりとしたキャンパスが広がっています。立て看板があり、見ると「説明会会場変更」のお知らせでした。後で分かったのですが、昨年よりも参加希望高校が多く、急きょ広いホールに会場変更したそうです(ここ数年の文低理高の傾向を反映しているのでしょうか?)。説明会は副学長(工学部長)の挨拶の後、いきなり学生による大学紹介。そして参加者を4グループに分け、1グループに3人ずつの学生が付いての施設見学と進んでゆきましたが、計12名の学生のうち8名は女子学生でした(ここ女子学生は元気よさそうです)。施設見学では研究室も2カ所案内されました。まず生命工学科の吉野研究室。出迎えてくれた吉野先生は30代と思われる美人女性准教授(説明してくれた研究内容や実験施設については全くついていけません、私が学生ならあなたについていきます!)。続いて電気電子工学科の涌井研究室へ向かったのですが、そこは古めかしい3号館。福山雅治のような先生が出てきたらどうしよう、と思って研究室にはいると、そこにいたのは60歳ぐらいの眼鏡をかけた柄本明でした…。この柄本明が実に楽しそうに室内にある実験道具や研究室の学生について説明するのは。それぞれの研究室には学生や院生など10数名ずつ配属になっているのですが、全員に1人1つずつ机が与えられており、充実した研究生活が想像されます(このあたりの人的および物的余裕が国立大学の良さですね…)

今回はお土産なし!

施設見学の後は、再びホールに戻って大学説明。まずは「農工大の教育と研究」…農工大が大学院基軸大学として研究拠点、高度技術者養成を目指していること。民間企業との共同研究が多く(教員一人あたりの受け入れ件数は全国2位、特許権実施料収入は全国1位)、公表論文数も多いこと等々。続いて「農工大の学生状況」…女子学生多く(農50%弱、工20%、全体で30%)、大学院進学率高く(農50%弱、工80%)、就職に強い(就職に強い大学ランキング8位/全国548大学中)。さらに「入試情報」…これについては残念ながら記憶がありません(実はお昼を国立駅前のラーメン屋で食べたのですが、美味しくて替玉まで注文してしまった上に、朝から歩き回ったのでつい睡魔が…。気になる人は自分で調べましょう!)

さて、説明会も終わり、急いで帰途につきます。いつもなら息子やカミさんに土産を買って帰るのですが、今回は大学生協も休みで購入できませんでした。電車からカミさんに「駅までお迎え頼む」メールをしたのですが返事無し。重い足を引きずりながら歩いて家まで戻ると、ちょうど息子を乗せたカミさんの車が出ようとするところ。カミさん曰く「さっきまでメールに気がつかなくてさー」…。無理してお土産買わなくてよかった…

(注)実はこの日は農工大に来る前に国立駅前一橋大学を勝手に見てきたのでした…